運輸政策研究所　第37回　研究報告会

世界遺産を活用した観光振興のあり方に関する研究

A Study on Tourism Promotion by World Heritage

平成27年6月3日

主任研究員　小室　充弘

Mitsuhiro Komuro

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

今回の報告内容

１．研究の背景と目的
２．世界遺産観光の実証分析
　（1）重点研究対象の絞り込み
　（2）石見銀山でのケーススタディ
３．有識者の知見・認識の把握
４．持続的な観光振興についての課題と対応策

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

1. 研 究 の 背 景 と 目 的

○地方創生が重要な政策課題
全国各地で地域固有の観光資源を活用した観光振興の取組み

○観光資源の一つとして、本来は観光振興を目的とするものではないが、「世界遺産」が注目されている。
※富岡製糸場は登録で観光客が3倍増。この勢いは続くのか？

○本研究では次の点を検証
・長期的な観点に立った場合、世界遺産は当該地域の観光振興に寄与しているのか。
・観光客の増加により、世界遺産の保全に支障が生じていないか。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

（研　究　の　全　体　像）

◎世界遺産観光の実証分析

〇世界遺産の類型化と文献調査で研究対象の絞り込み
〇特定の世界遺産を対象としたケーススタディ
・地方自治体ヒアリング
・地域住民や地場企業のインタビュー
・観光客アンケート調査

◎有識者の知見・認識についての把握

〇ケーススタディの補足・補強

◎課題事項の抽出と持続的な観光振興のあり方の提示

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

2. 世界遺産観光の実証分析

（1）重点研究対象の絞り込み

①登録後の観光客数の変化により、世界遺産を3タイプに類型化

A：登録により観光客が急増
- 屋久島、白神山地、白川郷、紀伊山地の霊場等、石見銀山
- 登録を契機に全国的な観光地として確立

B：登録後も観光客が堅調に推移又は登録によって観光客が下げ止まり
- 古都京都、古都奈良、日光社寺
- 日本を代表する観光地で遺産が広範囲に点在

C：登録後も観光客が減少
- 法隆寺、姫路城、厳島神社、原爆ドーム、知床
- 登録前からの有名な観光地。知床以外は大都市周辺に単独で存在。

本研究ではAタイプの世界遺産に焦点を当てる。

※琉球グスクもAタイプになるが、リゾート地沖縄本島に所在することから除外
※平泉、小笠原、富士山、富岡製糸場は登録後の年数が短いことから除外

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

②Aタイプの世界遺産（5件）について文献調査を実施。

◎登録後の観光動向

○登録を契機に観光客は急増。長期的には減少・横ばい。

石見銀山では、登録の翌年がピーク。
観光客は特定のスポットに集中し、滞在時間も短い。

○外国人観光客は増加しているが、総数は少ない。
白川郷20万人　～　石見銀山　2300人

単位：万人

	平成4	平成5	平成6	平成7	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25
屋久島	24	21	23	26	32	29	32	33	41	39	33	33	32	31	－
白神山地	18	21	24	36	72	73	68	67	67	56	54	－	－	－	－
白川郷	68	59	67	77	156	145	144	147	146	186	173	159	131	138	143
紀伊山地	－	－	－	－	935	1090	1160	1070	1138	1101	1065	1070	890	964	1014
石見銀山	－	－	－	－	31	32	34	40	74	81	56	51	50	43	52

※黄色は登録年。青は増加基調。緑は減少・横ばい。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎観光振興と世界遺産保全の関係

○屋久島、白川郷

・観光客の増加により環境や景観の悪化等が生じてから事後的に対応

○石見銀山

・官民連携の協働会議を設置し、登録前から対応策を検討
行動計画を策定

↓

・石見銀山パーク＆ライド方式の導入、石見銀山基金の創設　等

↓

・観光需要に応じて地区内路線バスを増便・増発したところ、
騒音・振動・環境・安全等の問題が発生。

↓

・住民の要望により路線バスを廃止したところ、観光客が減少。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

③重点研究対象の絞り込み

◎石見銀山をケーススタディの対象に選定

・登録2年目で観光客数がピーク
・観光客は特定のスポットに集中し、滞在時間短い（通過型）
・遺産保全等にも配慮した取組み。しかし、ジレンマも存在。

◎ケーススタディの内容

○地方自治体のヒアリング（島根県、大田市）

・登録後の観光動向の詳細、
・世界遺産を活用した観光振興に向けた取組み

○地域住民や地場企業のインタビュー

・世界遺産登録に対する評価
・世界遺産観光に対する地域社会の取組み、問題意識

○観光客アンケート調査（個人客、団体客）

・活動実態、遺産保全の理解度・観光の満足度・再訪問意向、
遺産保全等に対する協力の意思

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

（2）石見銀山でのケーススタディ

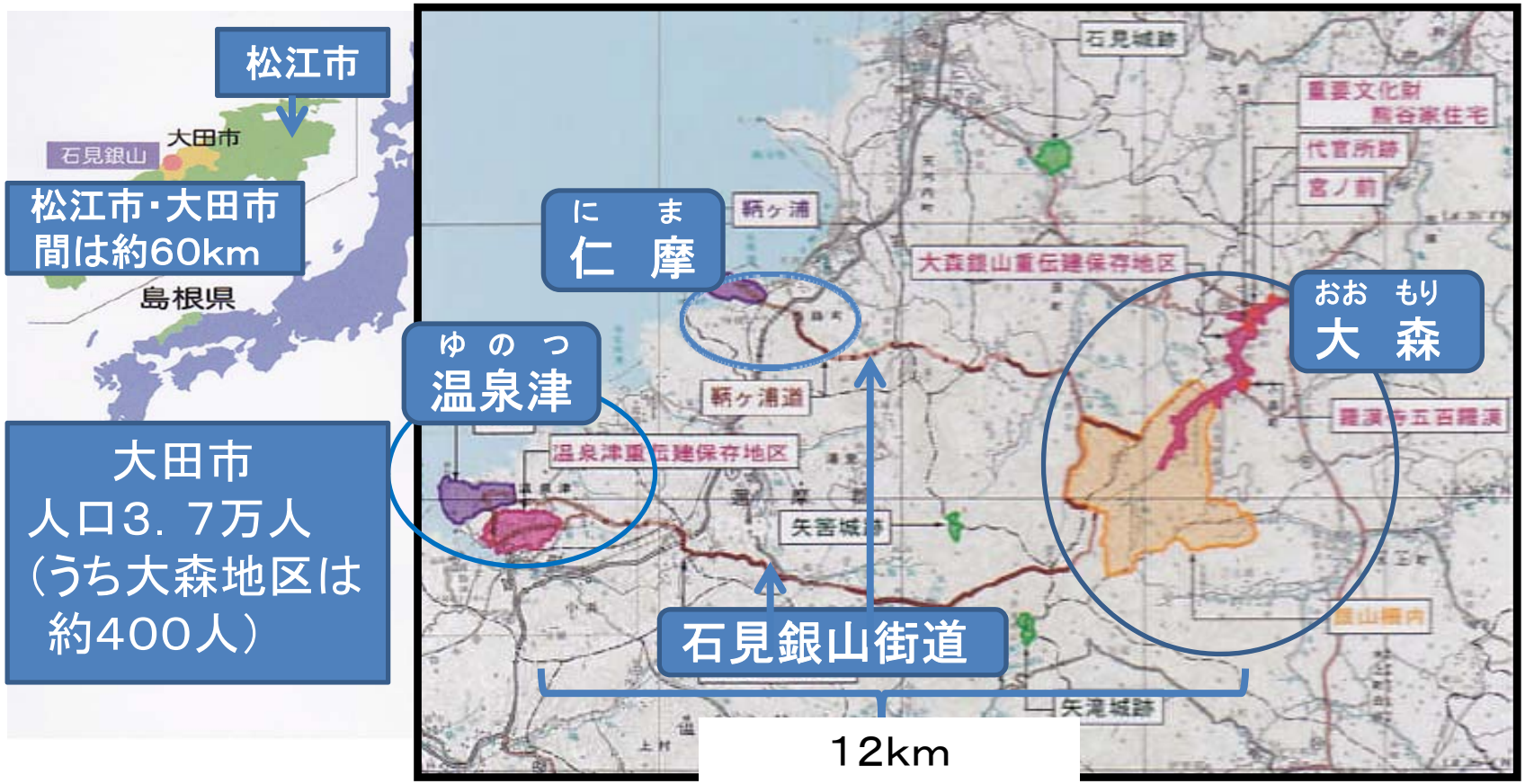
①世界遺産「石見銀山と文化的景観」の概要

所在地：島根県大田市

遺産構成：大森地区（銀山遺跡と鉱山町）

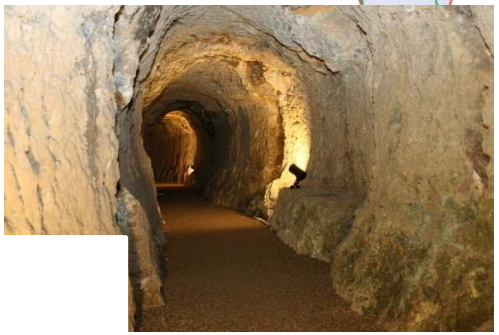
温泉津地区及び仁摩地区（港と港町）

石見銀山街道



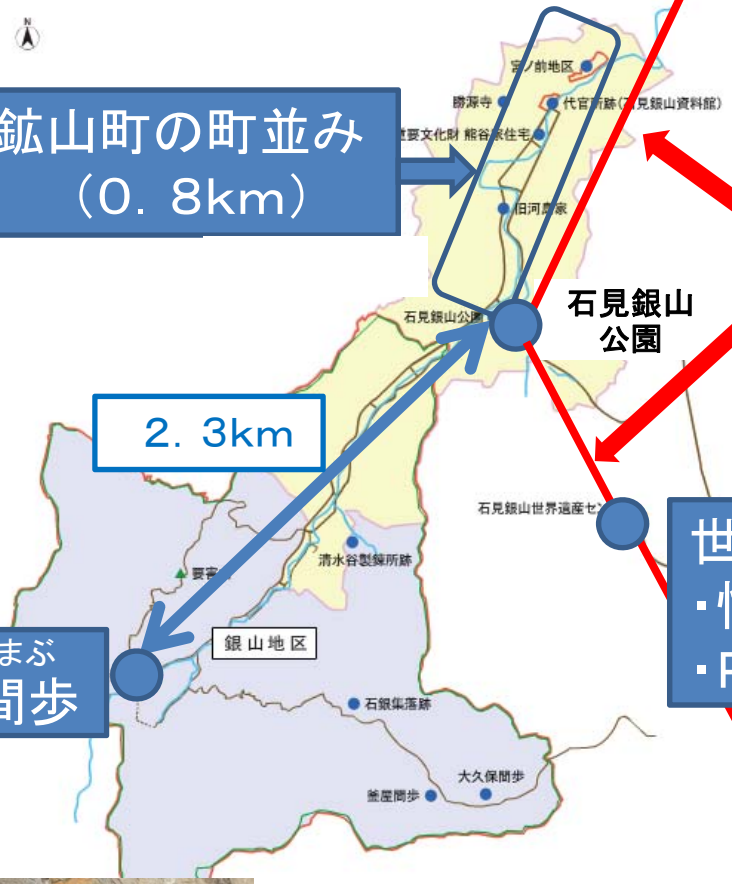
(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

鉱山町の町並み



龍源寺間歩

大　森　地　区



(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

ゆ　の　つ　　おきどまり
温泉津地区（沖泊の港）

に　ま　　と　も　が　う　ら
仁摩地区（鞆ヶ浦の港）

温泉津地区（温泉街）

石見銀山街道

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

登録後の大田市大森地区の状況

人口の推移

〇大田市：平成19年は4．1万人。平成26年は3．7万人。
　　0．4万人（9%）の減
〇大森地区：400～410人程度を維持。

観光関連の店舗

〇登録直後は、外部からの進出で、店舗数が倍増
〇しかし、観光客の伸び悩みから撤退する店舗も出ている。

雇　用

〇地場企業に就職する若者の増加（Uターン、Iターン）

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

②地方自治体（大田市、島根県）のヒアリング

◎登録後の観光動向

○観光客の属性の変化

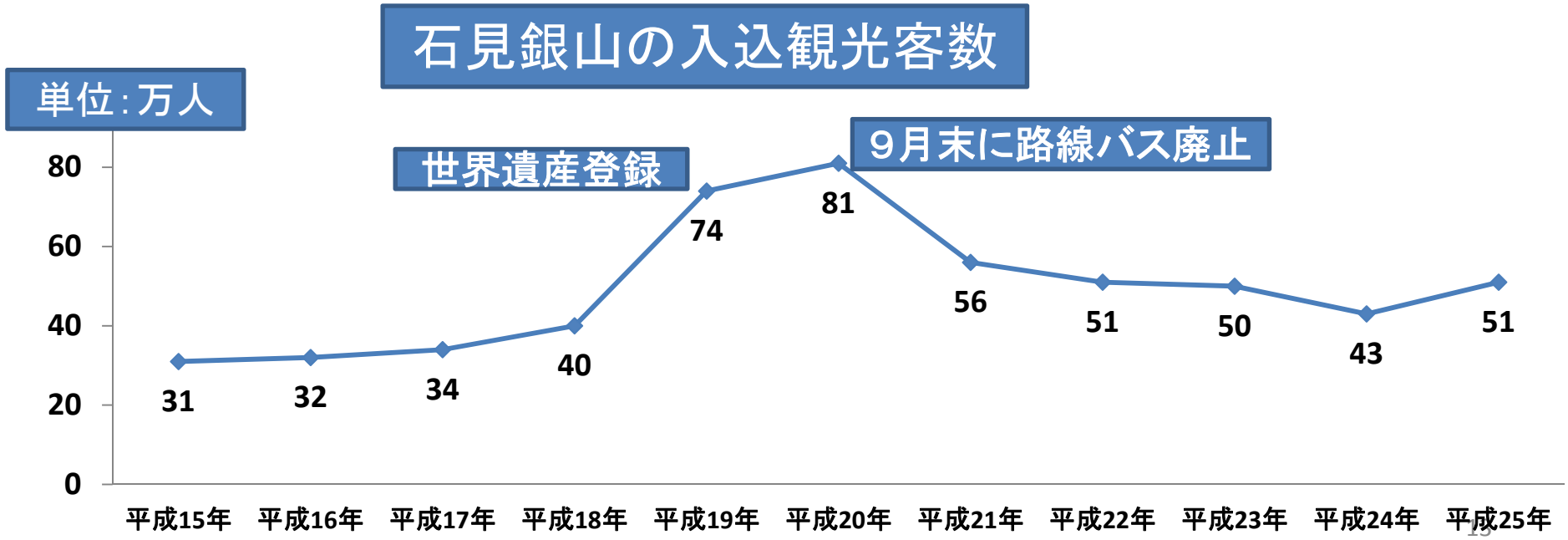
・観光客の居住地は全国規模、リピーターは1割程度

・登録当初は団体客が主体。その後は個人客の割合が漸増。

○観光客が減少に転じた要因、今後の見通し

・最大の要因は<u>地区内路線バスの廃止</u>

・<u>世界遺産ブランドにより今後も観光地として伸びる</u>ものと認識。



(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎観光振興に向けた取り組み

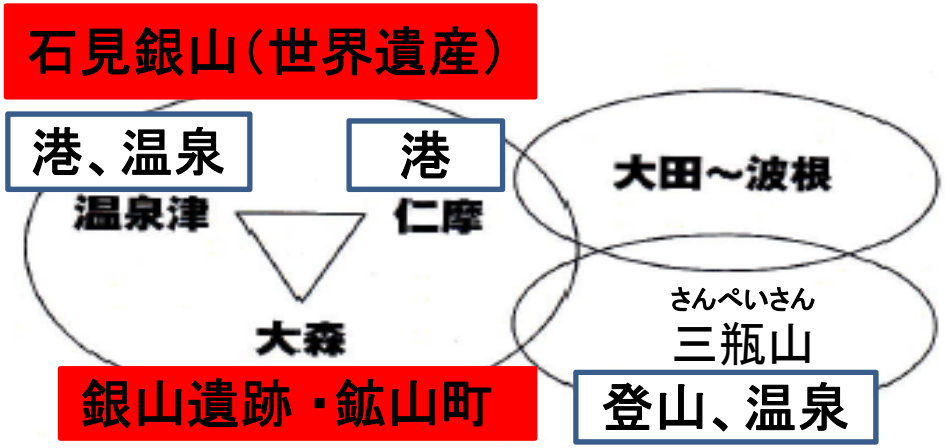
○取組み体制

・大田市が主体。島根県は支援する立場。

○基本的な方向

・世界遺産の価値の伝達に重点（量よりも質、リピーター化）

・大田市内の観光地の周遊（滞在時間の延長）



・広域的な観光ネットワークの構築

島根県東部（松江、出雲大社）

広島（厳島神社、原爆ドーム、石見銀山の3世界遺産連携）

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

○具体的な取り組み

（観光客の誘致）

・個人客のターゲットは未設定

・観光協会が主体となり3ヶ年計画で団体客の誘致を強化

（観光客の受入）

・<u>石見銀山の価値の伝達機能の強化</u>

石見銀山ガイドの充実、音声ガイド機の貸出

・<u>大森地区での快適な移動の確保</u>

レンタサイクルやベロタクシーの充実、休憩場所の確保

高齢者限定での小型電気バス運行を検討

石見銀山ガイド

ベロタクシー

小型電気バス

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎観光振興と世界遺産保全等の関係

○観光客数の適正規模

・ピーク時はオーバーユースとも言える状況。
　人口４００人、狭隘な地形の大森に７５～８０万人が来訪
・観光客の増加よりも滞在時間の延長等を重視

○観光客への課金は当面不要

・石見銀山基金の存在（官民の拠出、４億円規模）
・石見銀山で通用する電子マネーの購入代金の一部が基金に寄附される仕組みも導入

○観光客のマナーは大幅に改善

・ゴミ投棄、住民のプライバシー侵害は殆どない。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

③地域住民、地場企業に対するインタビュー

◎インタビューの対象

〇自治会の代表者（複数）

〇地場企業の代表者（複数）

観光は本業ではないが、宿泊施設の運営、古民家の再生による町並み保存等を通じて観光振興にも貢献。

◎インタビュー結果

1）世界遺産登録が地域社会に及ぼした影響

〇大勢は登録により大森地区は活性化したとの認識。

・観光交流の拡大（若年層、家族連れ、外国人の増加）

・人口の下げ止まり、若者の移住

・住民の誇りや地域の愛着への高まり

・伝統文化の維持・復興（神社の修復、神楽上演の増加）

〇登録は誇りに思うが、これを地域活性化の手法として捉えるべきないとの意見も存在。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

2）世界遺産観光の目指すべき方向

〇観光振興と遺産保全、住民生活の調和が大前提

〇「質の高い」観光客の確保とリピーター化

〇観光客の回遊も重要（銀山遺跡→鉱山町、大森→温泉津、仁摩）

3）観光振興方策

〇目新しい提案もあるが、具体化に向けた議論は進んでいない。

・石見銀山の価値の伝達機能の強化

-観光客への事前ガイダンス、住民全体の説明力アップ

・隠れた観光資源の発掘と活用

-寺院や神社：休憩、学習、展望台/山中の鉱山町遺跡

・土産物・特産品の開発

・冬季の観光需要の喚起

-冬景色、旬の魚介、神楽鑑賞の組み合わせ

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

4）観光振興と遺産保全、住民生活の関係

（観光客の適正規模）

〇ピーク時は明らかにオーバーユースな状況。

〇観光客の減少要因、今後の観光客数の規模では意見が分かれる。

（観光振興をより重視）		（遺産保全、住環境をより重視）
地区内路線バスの廃止	×	ブームの一段落
現状よりは増やしたい	×	現状のままでよい

（地区内の移動手段）

〇歩く観光が基本。高齢者等への配慮が必要。

〇小型電気バスは理解を得やすいようだが、一部に抵抗感もある。

（世界遺産保全財源）

〇入山料や環境協力金（100円単位）の徴収を求める意見もある。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

５）行政への要望

○関係者間で世界遺産観光の進め方について意見調整等を行うに当たり、行政のリーダーシップを期待

○空港や鉄道など公共スポットでの世界遺産「石見銀山」のPR強化

○古民家の維持・再生に対する支援の強化
特に、温泉津や仁摩で古民家の取壊し、空き家の増加が深刻化

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

④観光客アンケート調査

◎アンケート調査の概要

○実施時期、対象者

平成26年8月（4日間）、9月（4日間）
石見銀山（大森）に来訪した日本人観光客（個人客と団体客）

○調査方法、サンプル数

個人客　調査員による聞取り、調査票の配布・郵送回収を併用
465人（8月238人、9月237人）
団体客　全国各地発の10ツアー参加者に調査票を配布・郵送回収
236人

○調査のポイント

・観光客の属性、活動実態
・世界遺産保全の理解度、観光の満足度、再訪問意向
・世界遺産保全等に対する協力の意思

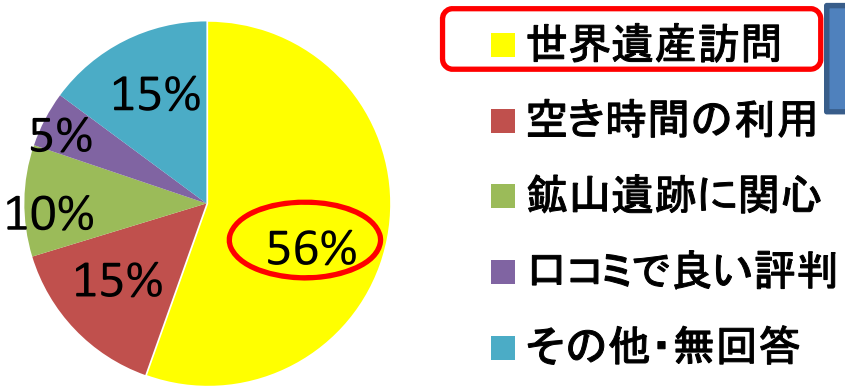
(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎アンケート調査結果

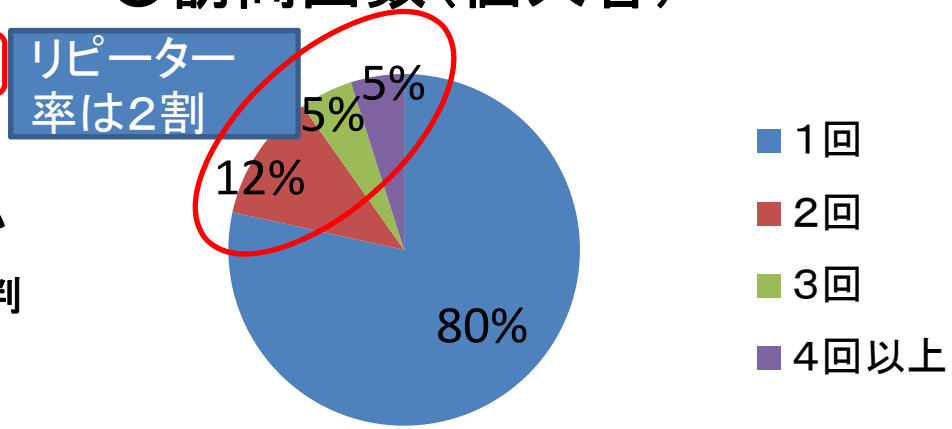
①観光客の属性

○居住地（個人客）

○訪問理由（個人客）



○訪問回数（個人客）



※団体客の7割は世界遺産「石見銀山」に立ち寄るのでツアーに参加したと回答

※団体客のリピータ率は3%。

・石見銀山は世界遺産ブランドで全国的な観光地として確立
・初来訪者が主体で、リピーター率は低い。
全国の主要観光地の平均値は7割（平成21年度観光庁調査）

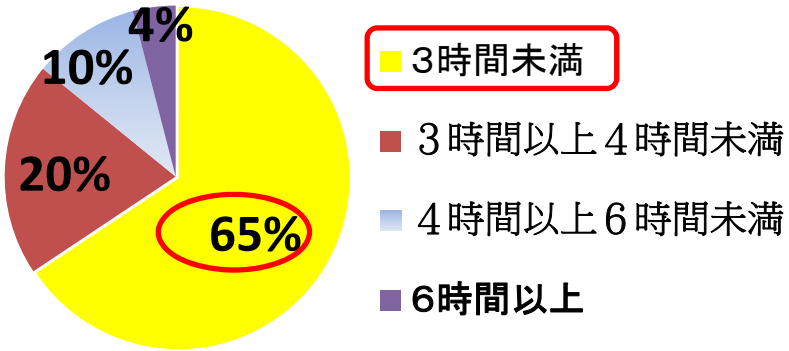
(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

②観光客の活動実態

（個人客）

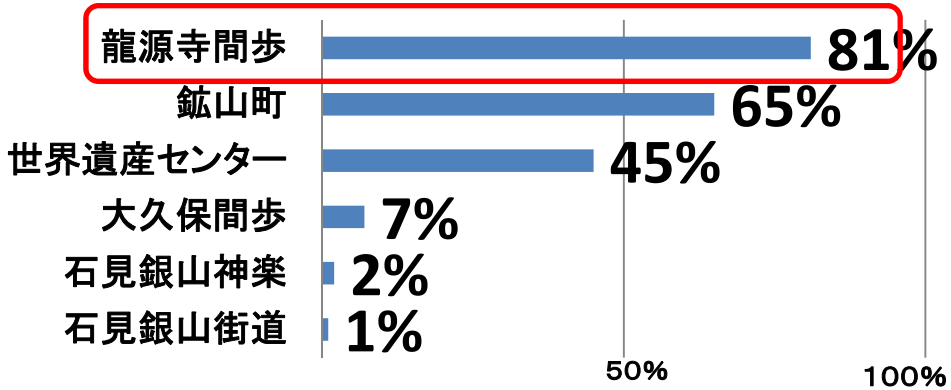
〇3時間未満で龍源寺間歩を中心に観光する傾向

個人客の滞在時間



N＝465

訪問先等



N＝465

〇大田市内の観光地（温泉津、仁摩、三瓶等）を周遊する 観光客は3割

〇温泉津、仁摩が世界遺産であることの旅行前からの認知度は4割

（団体客）

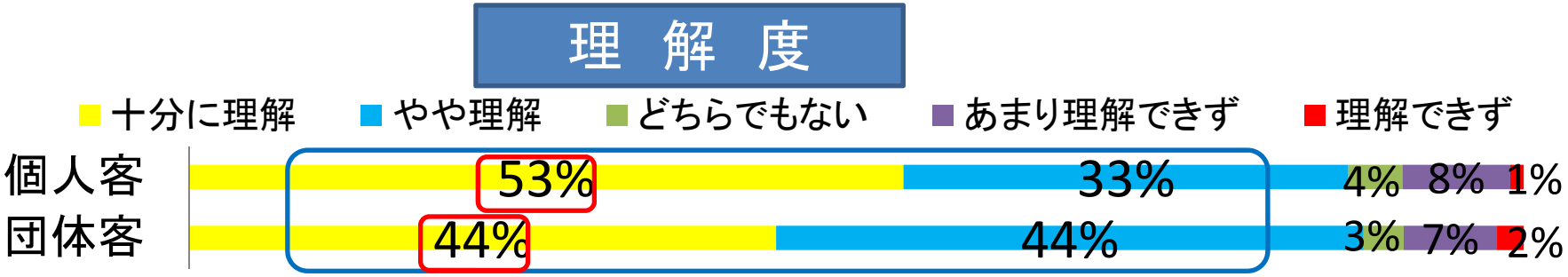
〇ツアーの滞在時間は2時間半程度。龍源寺間歩が目的地で、時間が余れば、鉱山町を散策。石見銀山（大森）のほか大田市内には立ち寄らない。

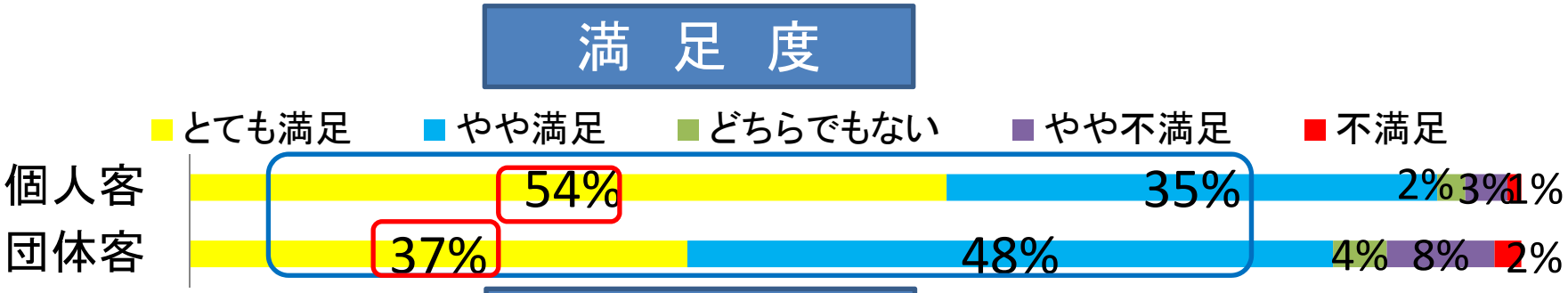
(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

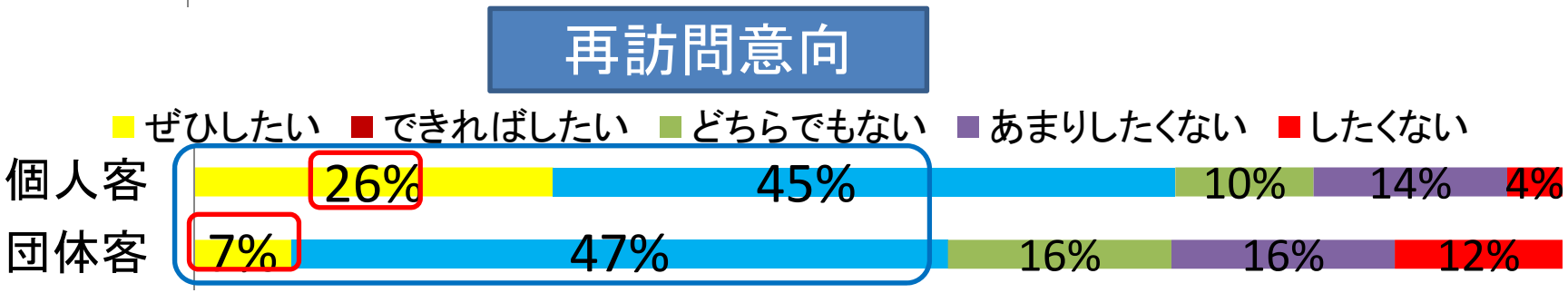
③世界遺産保全の理解度、観光の満足度、再訪問意向

○理解度、満足度はかなり高いが、再訪問意向はやや低い。

○「十分に理解できた」「とても満足した」「ぜひ再訪問したい」では個人客が団体客を大きく上回る。





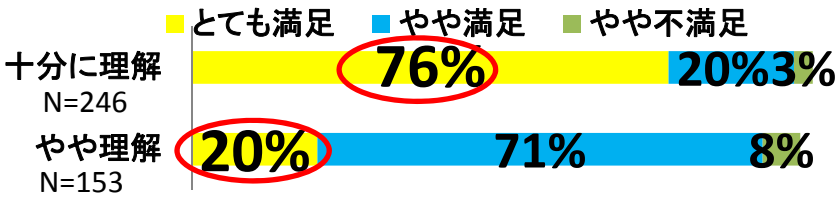


※個人客：465人、団体客：236人

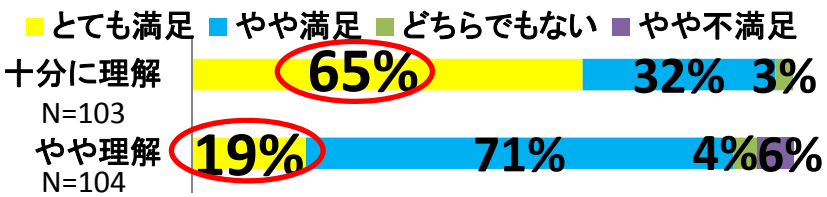
(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

○理解度のアップ → 満足度のアップ → 再訪問意向のアップ

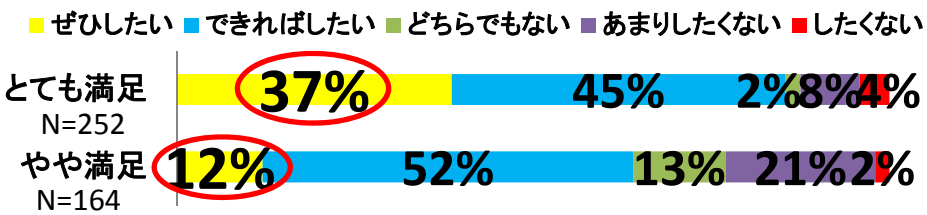
理解度と満足度（個人）



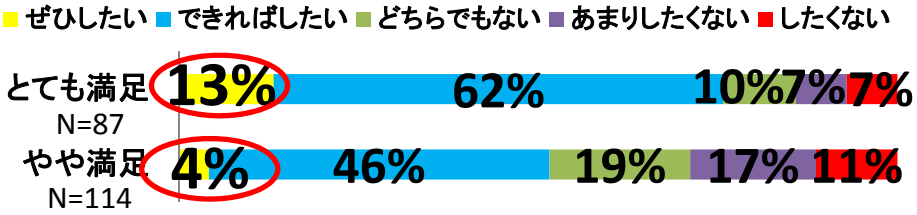
理解度と満足度（団体）



満足度と再訪問意向（個人）



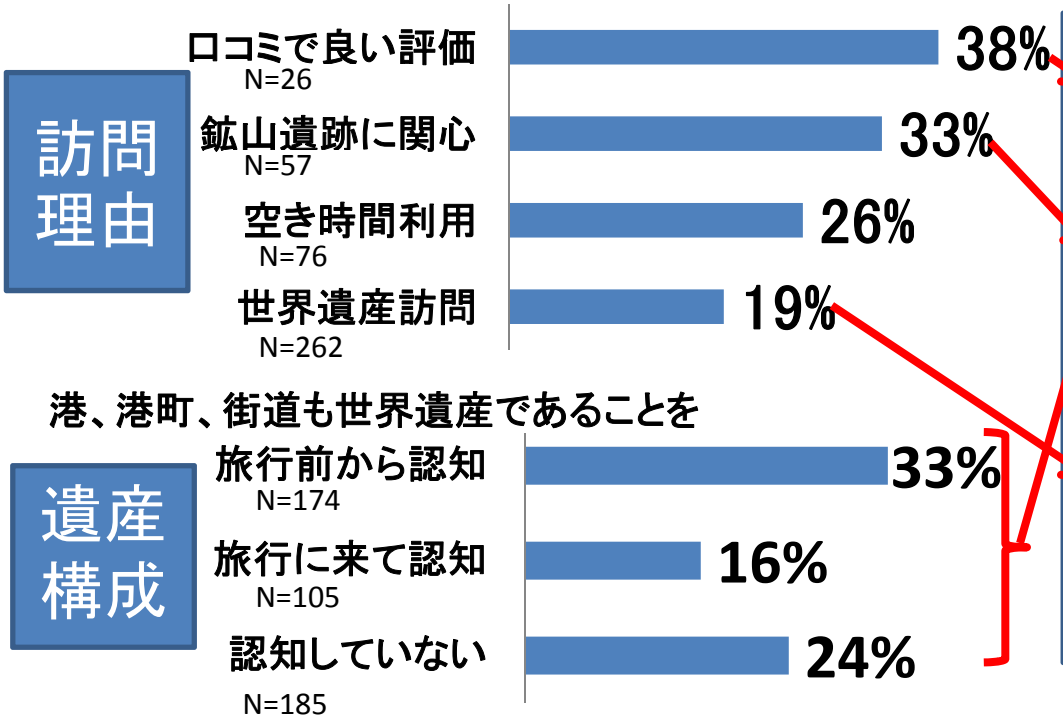
満足度と再訪問意向（団体）



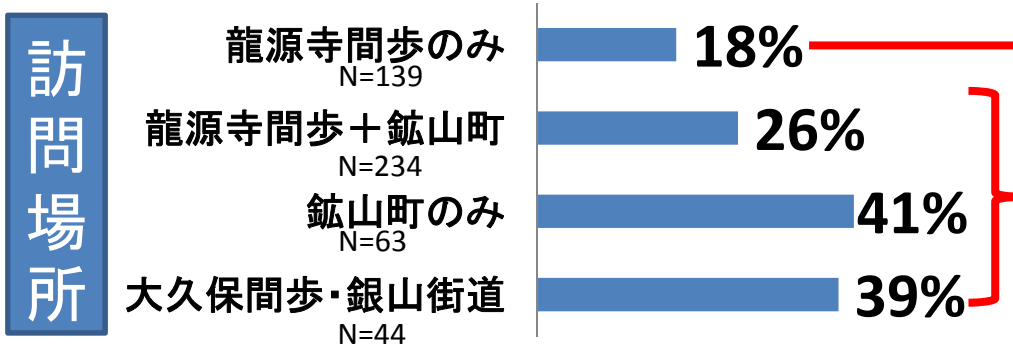
・個人客「とても満足」でも「ぜひ再訪問したい」は4割
・どうすれば「ぜひ再訪問したい」は増えるのか

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

③－２　個人客の再訪問意向
～　属性別等に見た「ぜひ再訪問したい」の割合　～



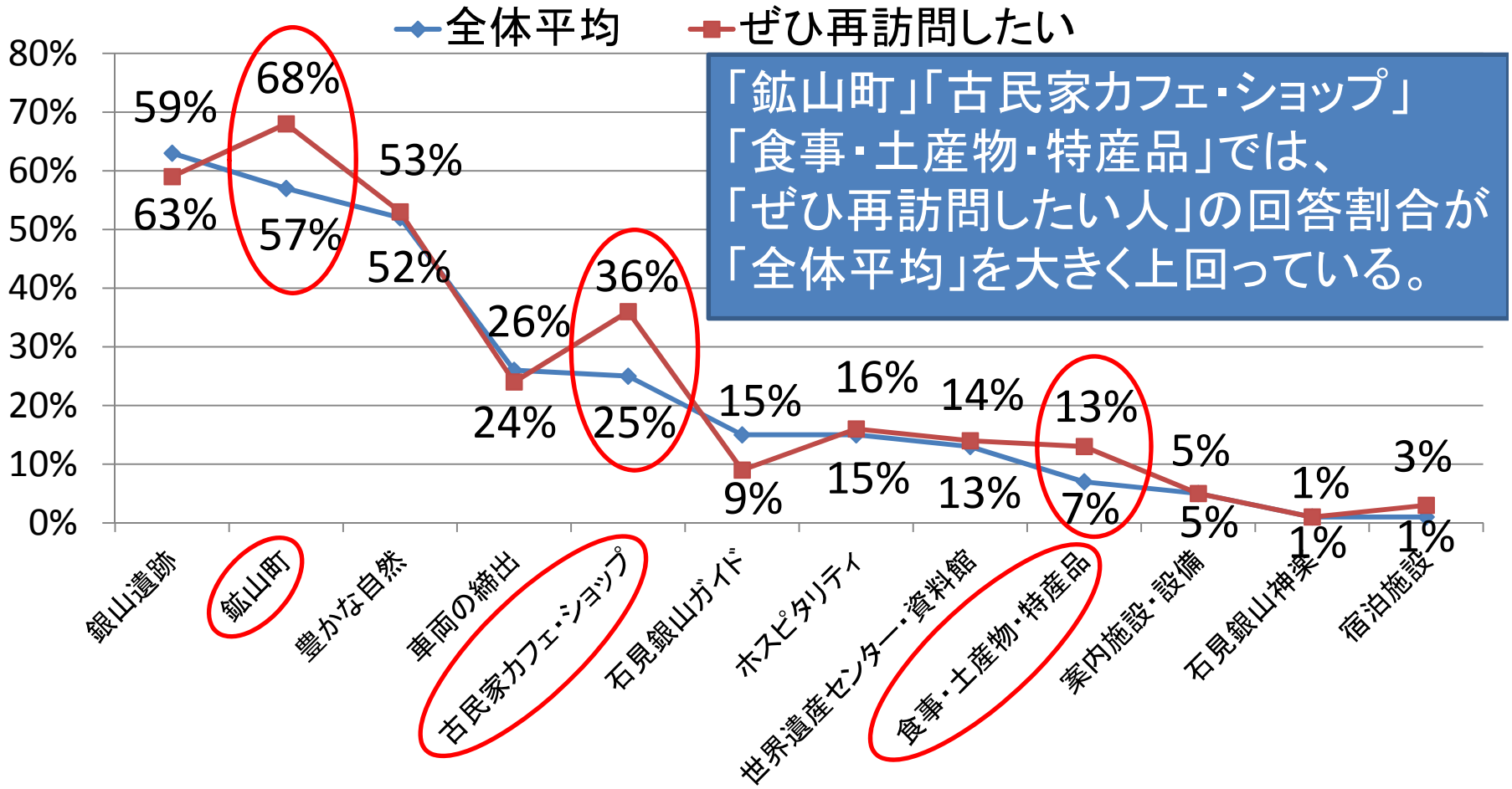
- 口コミによる来訪者は高い。
- 世界遺産の歴史や価値に関心のある人は高い。
- 世界遺産訪問のみが目的の人は低い。



- 龍源寺間歩のみの訪問者は低い。
- 鉱山町や非定番の大久保間歩等の訪問で高くなる。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

石見銀山で特に満足した事項
※総合満足度に関わらず最大5項目まで選択可



「鉱山町」「古民家カフェ・ショップ」「食事・土産物・特産品」では、「ぜひ再訪問したい人」の回答割合が「全体平均」を大きく上回っている。

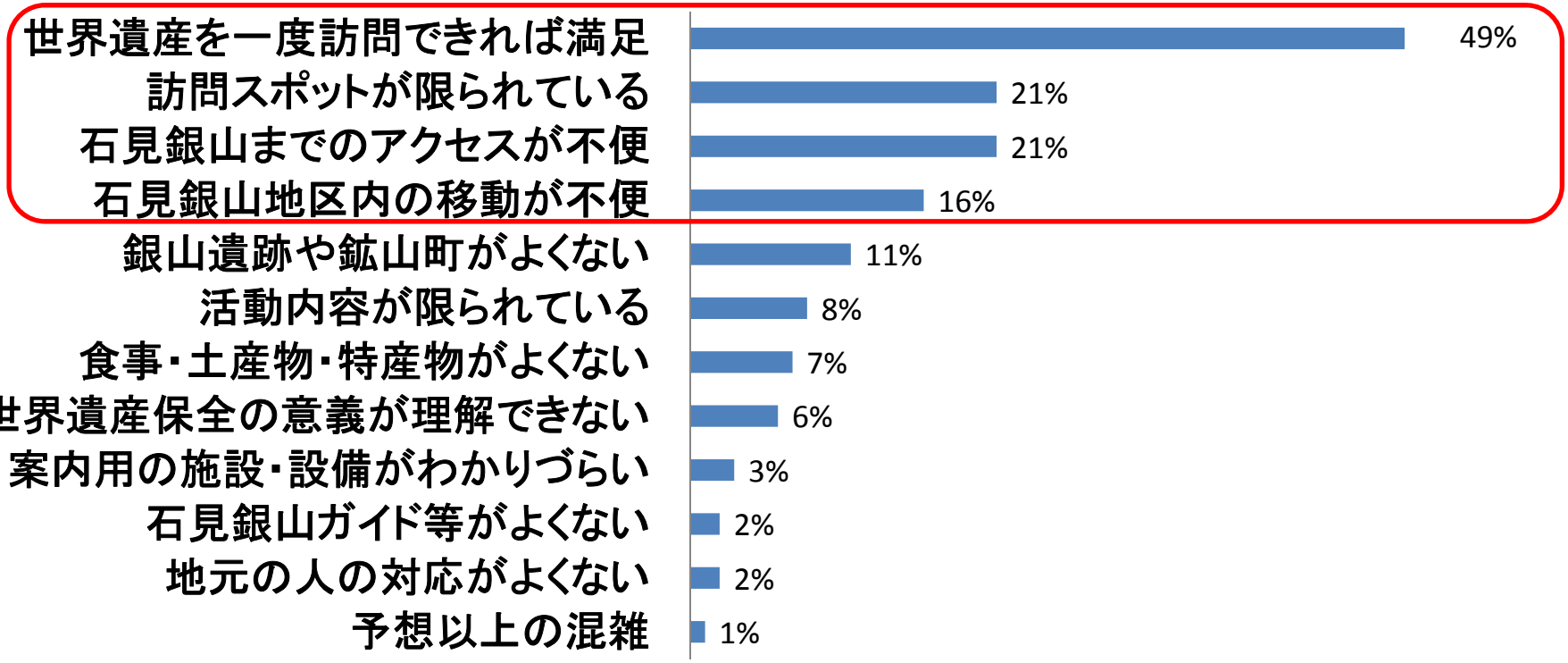
鉱山町への回遊性を高め、散策中の食事、買物の楽しみを付加することで、ぜひ再訪問したい観光客を増やせるのではないか。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

～　再訪問を希望しない理由　～

※「訪問したくない」「あまり再訪問したくない」「どちらでもない」と回答した人に確認

N＝126



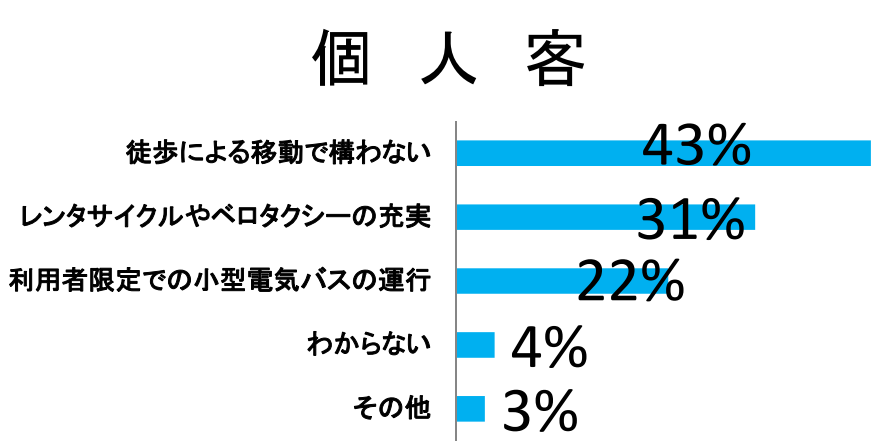
・世界遺産ブランドのみではリピーターの確保が困難

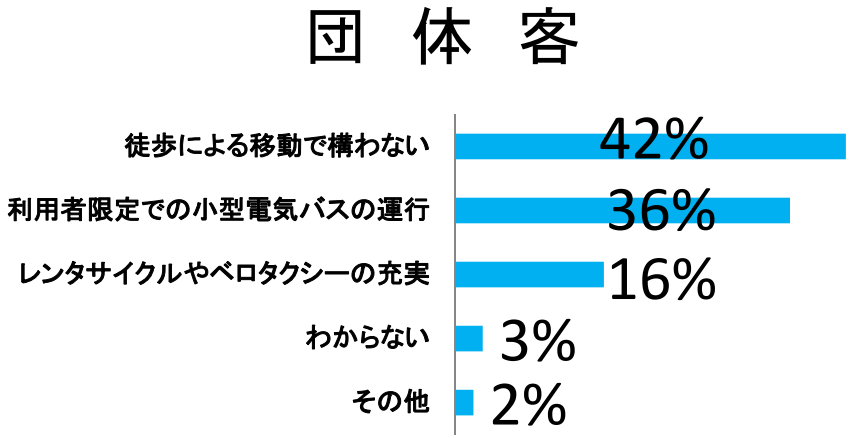
・観光プログラムの充実
・石見銀山へのアクセス改善
・地区内の快適な移動

が課題

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

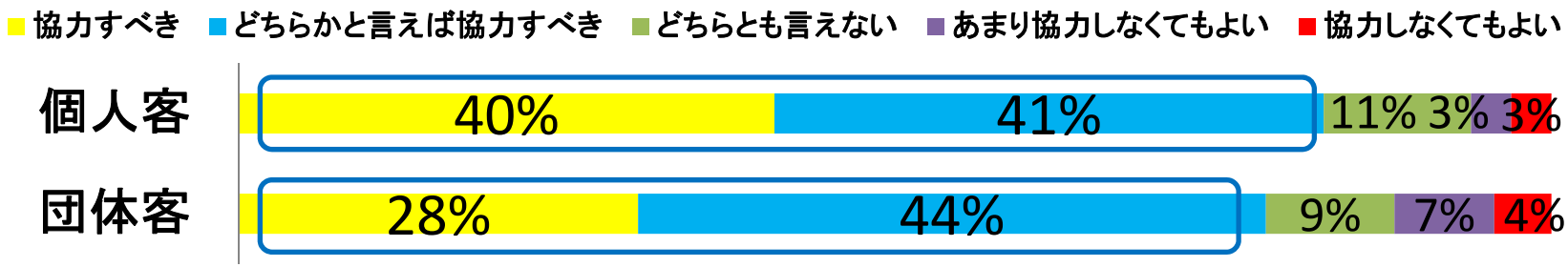
④観光振興と世界遺産保全、住民生活の関係
○大森地区内の移動手段のあり方





※小型電気バスは年齢が高いほど多くなる。

○遺産保全に対する観光客の資金面での協力



(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

⑤ケーススタディのまとめ

◎地方自治体ヒアリング

〇基本的な方向：質の高い観光客の確保、リピーター化、
大田市内の周遊観光ルートの設定

〇観光客数は、ピーク時に比べ、減少・横ばいで推移しているが、あまり危機意識はない。（世界遺産＝観光地として大きな魅力）

〇ピーク時はオーバーユースであったが、現状では観光と遺産保全、住民生活は概ね調和しているとの認識。

◎地域住民・地場企業インタビュー

〇世界遺産登録を肯定的に評価。

〇しかしながら、観光振興方策の具体化、観光客の適正規模、高齢者等の移動手段、遺産保全財源のあり方など関係者間の意見調整が必要な事項も存在

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎観光客アンケート

（観光振興）

○世界遺産ブランドは初来訪者の誘致に大きな効果。
　しかし、それだけでは、リピーターの確保にはつながらない。

○個人客を中心に世界遺産保全の理解度、観光の満足度は、
　かなり高いが、再訪問意向はやや低い。
　→観光客の特性・ニーズを踏まえたリピーター確保策が必要

（観光振興と遺産保全等の関係）

○歩く観光は、かなり広範に支持されているが、高齢者等の
　移動手段として小型電気バスを求める意見も多い。

○観光客への課金は比較的理解が得やすい雰囲気

◎総括

○地方自治体を始めとする関係者が連携し、遺産保全等との調和
　に配慮しつつ、観光客の誘致・受入に戦略的に取り組まないと、
　観光需要を長期的に維持することはできないのではないか

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

３．有識者の知見・認識の把握

（1）世界遺産登録が観光に及ぼす効果

〇国内観光客の誘致に大きな効果

〇地域の関係者が努力しないと効果は持続しない。

・地域の関係者による話し合いの場の構築

・リピーター化、口コミによる来訪の促進

（2）観光振興と世界遺産保全の関係

〇観光客の適正規模：関係者の協議により決定すべきもの。

過大な需要		過小な需要
・遺産保全に支障 ・観光客の満足度低下	←→	・コミュニティの維持に支障 ・保全財源の不足、遺産の価値が広く伝わらない

〇観光客の課金：遺産保全財源の補填のほか、遺産保全の重要性の啓発等の名目でも徴収できる。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

（3）世界遺産のインバウンド観光への活用

○訪日外国人3000万人時代に向けてリピーターの確保が課題。
地方部にも観光拠点が必要。

○海外では日本ほど世界遺産に対する関心が高くない。
（東アジア＞欧州＞北米・豪州）
世界遺産登録のみでは、外国人は集まらない。

○地域の関係者が熱意をもって、世界遺産を一つのコアにして、
外国人の誘致・受入活動を戦略的に展開することが不可欠。
・世界遺産の価値＋地域独自の魅力（景観、日本らしさ体験）
を一体的にPR
・周辺の観光地との連携、世界遺産と同一軸でつながる地域
の相互連携で誘致力のアップ

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

4. 世界遺産を活用した持続的な観光振興についての課題と対応策

（1）課題事項

石見銀山のケーススタディと有識者の知見・認識

◎世界遺産登録は、メジャーでない観光地にとって、国内観光客誘致の起爆剤となるが、登録のみでは需要増は続かない。

- 登録時は、世間の注目度が高まり、初来訪者が急増。
- 時間の経過で、世間の注目度は低下し、初来訪者は漸減。
- 世界遺産ブランドのみでは、リピーター化は期待できない。

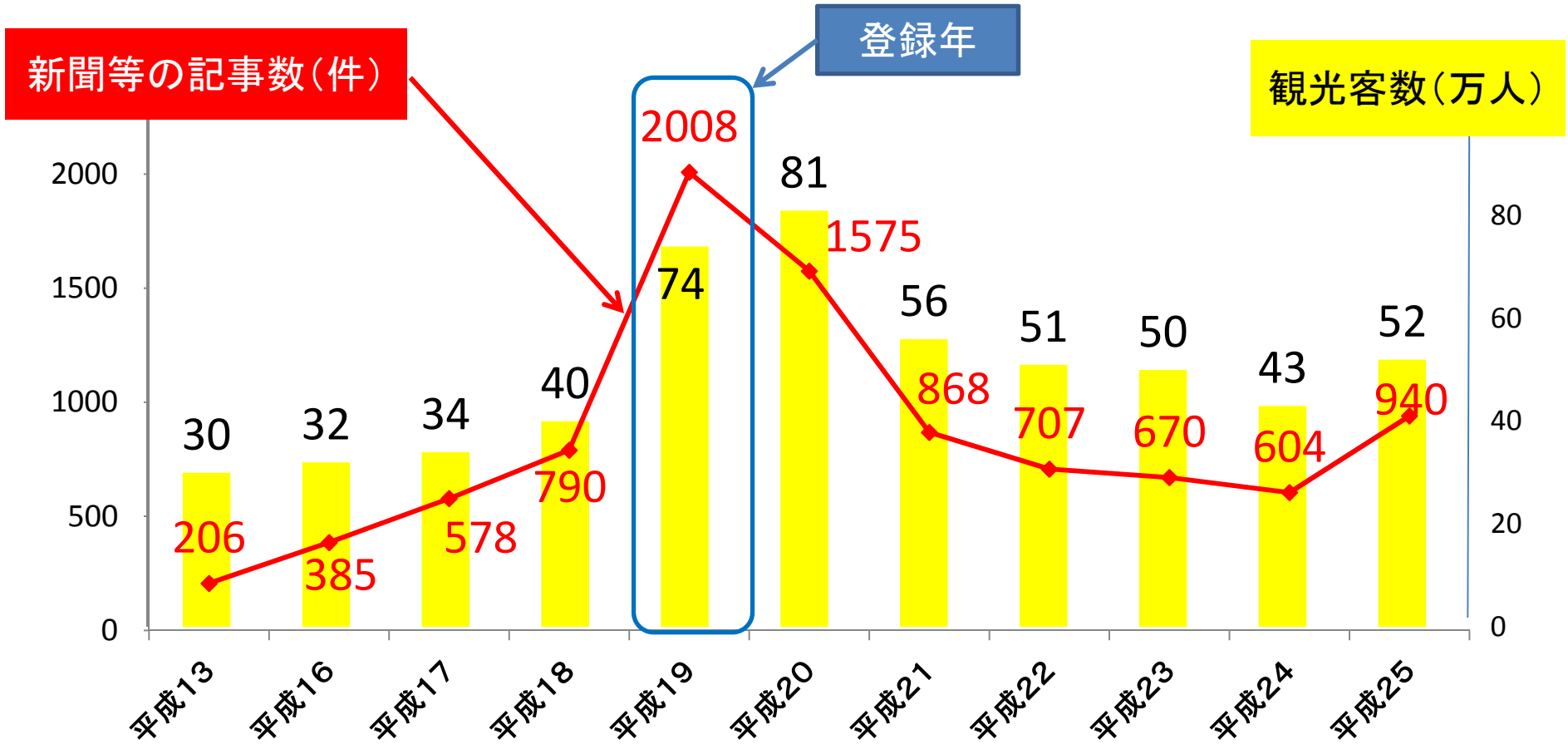
また、登録は外国人観光客の増加には直ちに結びつかない。

◎観光振興と世界遺産保全、住民生活との調和が不可欠。

- 観光需要の無制限の増加は遺産保全等の見地から認められない。観光客の満足度も低下する。
- 過度の需要抑制は、地域の活性化等にとって望ましくない。地域社会の世界遺産保全力にも影響。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

石見銀山関連の新聞等記事数と観光客数の関係



（参考）2014年の記事数
東京ディズニーランド2477件、USJ1883件

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

（2）課題事項への対応策

◎世界遺産所在地の関係者による協議・連携体制の構築

世界遺産観光のあるべき姿について合意形成

地域振興、観光の質、遺産保全、住環境のバランス確保　など

観光に関連する事項毎に達成すべき目標を設定

地域振興：観光客数、リピーター率、観光関連の店舗数、市内観光地の回遊率
観光の質：世界遺産保全の理解度、観光の満足度、再訪問希望率
遺産保全：文化財、古民家等の町並み、自然環境、伝統芸能の保全状況
遺産保全資金の充実度
住環境：住民の受ける迷惑の度合い、観光客のマナー遵守状況　など

目標の達成に向けて観光振興のための取組みを具体化

国内外の観光需要の維持＋観光と遺産保全、住環境の調和　など

目標の達成状況の定期的なモニタリング

観光統計、観光客アンケート、遺産損傷度の点検、住民ヒアリング　など

必要に応じて、取組内容等の変更を検討

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎観光振興のための取組みの事例

○国内外の観光需要を維持するための戦略的な取組み

・リピーター化しやすい層に焦点を当てた誘致

石見銀山：個人客、女性、40・50代、関西～九州に居住、マイカー利用
遺産の歴史・価値に関心のある人、口コミによる来訪者　など

・来訪者の理解度、満足度、再訪問意向を向上させる工夫

石見銀山：鉱山町への回遊、食事・買物の楽しみ、非定番メニューの開拓
季節毎の見所の提供、市内周遊ルートの設定　など

・低満足度・再訪問の障害となっている要因への対処

石見銀山：空港等からの直行バス、高齢者用の小型電気バスの検討　など

○観光振興と世界遺産保全等の調和

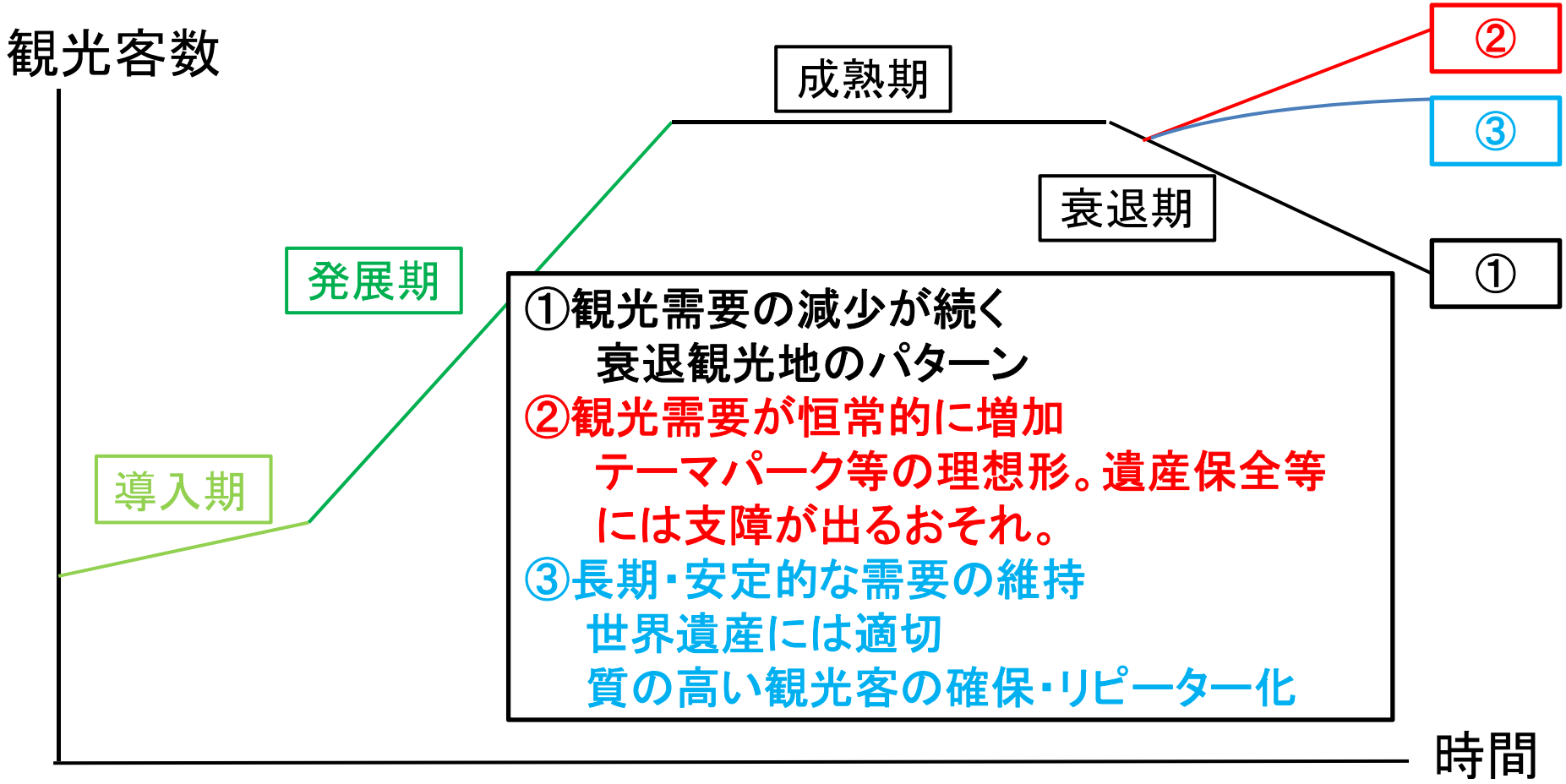
・必要に応じて、需要管理、交通規制、観光客への課金。

石見銀山：交通規制については高齢者等への配慮も必要
財源不足はなくても不時の出費に備えて協力金等を検討

・遺産への負荷に 配慮した観光振興策の工夫（需要増よりも滞在時間の延長、オフ期の需要喚起など）

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎観光地のライフサイクル論的には、テーマパークのような恒久的な需要拡大を目指すのではなく、質の高い観光客の長期・安定的な確保を図ることが適切。



※観光地ライフサイクルに関する資料（出典：ジョン・トライブ著[2007]，『観光経営戦略』，センゲージ　ラーニング社）を参考にして作成

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

◎個々の世界遺産所在地をベースにした取組みには限界があるので、引き続き、次のような対策を検討することも必要。

○世界遺産相互の情報・意見交換の強化

・世界遺産サミット等のほか、担当レベルのWGを頻度を上げて開催。

○内外の世界遺産に関する観光情報や研究者・論文についてのデータベースの整備

○世界遺産を含む広域的なエリアについて競争力を強化

・北陸「ミシュラン」三ツ星街道

金沢～五箇山・白川郷（世界遺産）～高山の連携

○世界遺産と同一の軸でつながる地域の相互連携による観光地としての競争力（誘致力、交渉力）の強化

・世界遺産を核にした産業遺産の連携など

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015

ご清聴ありがとうございました。

(C) Mr. Mitsuhiro KOMURO, Institute for Transport Policy Studies, 2015